

血管内皮機能検査				S109	
				担当部署	
血管内皮				生理	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→生理→血管内皮機能検査			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		低下：高血圧症、糖尿病、脂質異常症(高 LDL コレステロール血症、高トリグリセライド血症)、高尿酸血症、慢性腎臓病、肥満・メタボリックシンドローム、睡眠時無呼吸症候群、慢性心房細動、心不全、肺高血圧			
検査受付時間		8：45～17：30			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		1) 腕や指についている貴金属類は全て外し、ベット上で 15 分安静後、検査を実施する。 2) 検査前の採血は不可。 3) 検査に 30 分以上を要する。			
検体採取の特別なタイミング		検査前採血不可			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	人体(指)	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		ベッド不可			
検体受入不可基準		1) 血圧測定が困難な患者 2) 検査に同意を得られない患者			

保管検体の保存期間		特記事項なし				
検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		90 分				
生物学的基準範囲		[PAT ratio] 2.10 以上 : 良好 1.68~2.09 : 問題のない状態 1.67 以下 : 要注意				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	特記事項なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		低下 : 食事・カフェインの摂取、喫煙、加齢 高値 : 閉経前の女性 * 月経周期に伴う血中エストロゲン濃度の変動により、血管内皮機能が変化する。 * 運動、減塩で改善傾向を示す。				
臨床的意義		血管内皮より様々な生理活性物質が産生・分泌されており、特に一酸化窒素の生産は、血管平滑筋の弛緩に影響を及ぼす。心疾患のリスク因子の多くは、内皮機能障害に関連し、適切な評価は重要である。駆血開放前、後の動脈血流量の比を RHI(反応性充血指数)で求め、血管内皮機能を評価する。				